



## 小学生バドミントン県大会で優勝 三島小の美濃口舜さん、全国大会へ

第19回ダイハツ全国小学生ABCバドミントン大会茨城県予選会が6月23日、下館市で行われ、男子シングルスに出場した三島小学校の美濃口舜さん（6年）が見事優勝し、全国大会への切符を手に入れました。美濃口さんは小学



1年生からバドミントンをはじめ、毎日の練習のほかに、家で1時間以上トレーニングを行っているそうです。8月に熊本県で行われる全国大会に向け「ベスト8に入れるように頑張ります」と意気込みを語ってくれました。全国大会での活躍を期待しています。



寄贈された絵画と鈴木さん（右から2番目）

## 日本の魅力、世界に発信 鈴木掌さんから絵画を寄贈

市内在住のアーティスト・鈴木掌さんから、絵画を寄贈いただきました。鈴木さんは、生命の持つエネルギーを枠にとられない多様な手法で表現するアーティストで、絵画と音楽を融合したパフォーマンスを行うなど、マルチな才能を発揮し幅広く活動されています。今回の絵画については「野獣はパワーやエネルギーの象徴。日本の恰好よさを、世界にアピールしていくという強い気持ちを表現した」と語ります。鈴木さんの今後の活躍にも注目です。

## 感謝の気持ちと食の大切さ学ぶ 小絹小の児童が田植え体験

小絹小学校の児童が6月5日、寺畑地区内の田んぼで田植を体験しました。この日は小絹小学校5年生の児童79人が参加し、NPO法人「古瀬の自然と文化を守る会（古瀬の会）」会長の寺田義雄さん、事務局長の小菅新一さんを中心とした同会の皆さんの指導のもと、昔ながらの手法で苗を植えていきました。

小絹小学校の米作り体験は総合的な学習の時間の一環として5年生が毎年取り組んでおり、米作りの大変さや昔から守られてきた知恵などを学んでいます。

体験を終え、山澤空音さんは「小さいごはん粒なのにこんなに大変な思いをして作ってるんだと思いました。だから、ご飯を食べるときは、古瀬の会の人たちやご飯を作っている人たちなどに感謝しながら食べたいです」と感想を述べ、中村祥太郎さんは「1日しか働かせませんが、農家の人はお米ができるまで毎日様子を



田植えに取り組む児童たち

見ていかないといけないので本当に農家の人は大変。その分やっぱり食べ物大切にしないといけないと思いました」と述べるなど、参加した児童は、米作りの大変さを知ると同時に、作ってくれた人に感謝の気持ちを持つことの大切さを学びました。

5年生は今後、草刈り、稲刈り、脱穀と、私たちが食べるご飯となるまで学んでいくとのことでした。